

### 3 国語，算数・数学の分析結果

※ 本分析で使用している全国平均は，公立学校の平均である。

#### (1) 国語

##### ① 小学校国語

##### ア 国語A (知識)

#### 《全体的な傾向》

全国平均正答率と比較すると，1.5ポイント上回っている。(昨年度は1ポイント)  
 領域別に見ると，「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」は3ポイント以上上回り良好な結果であったが，「言語事項」は全国平均とほぼ同程度である。今後言語事項の指導が必要と思われる。

#### ○正答率が低かった問題について

(1) 漢字を読む			
①新しいクラスに慣れる	(正答率 本市 97.3	全国 96.2)	
②本の目次を見る	( " " 98.8	" 96.0)	
③いつも清潔なハンカチを持つ	( " " 97.9	" 96.5)	
(2) 漢字を書く			
①ひさしぶりにおじさんに会う	(正答率 本市 74.9	全国 80.1)	
②ぎじゅつが進歩する	( " " 74.7	" 74.7)	
③星の位置がへんかする	( " " 89.3	" 90.3)	

#### ◇分析

「漢字の読み」については，3問とも全国平均を上回っているが，「漢字を書く」では3問とも全国平均を下回るか同水準であった。本市の児童は，読むことは得意であるが書くことは苦手なようである。漢字の書き取りなど日々の練習が必要である。

#### ◎学習指導に当たって

漢字を正しく読み，書く力は，表現したり理解したりするために必要な基礎的な知識や技能であり，漢字を含む語彙の拡充を図るためにも重要である。

##### (1) 文や文章の中で漢字を使う

学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読み，当該学年の前学年に配当されている漢字を書くことができるようにすることが必要である。そのためには，日常的に文や文章の中で漢字を使おうとする態度が身に付くようにするとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，適切に使うことができるように指導することが大切である。例えば，日記や授業中のノートへの記入などにおいても，既習事項の漢字は正しく書く習慣を日常的に身に付けることで定着すると思われる。

##### (2) 漢字を使った語彙の拡充を図る

学年の進行に合わせて語彙の拡充を図るとともに，獲得した語彙を，漢字を使って表現できるようにすることが重要である。そのためには，特に同音異義や同訓異義の漢字に気をつけて，漢字がもつ意味を考えながら正しく使う習慣が身に付くように指導することが大切である。

##### (3) 国語辞典や漢字辞典を利用して調べる

常に手元に辞書を置き，必要に応じて積極的に使えるようにするなど，日常から配慮する必要がある。調べる習慣を通して，言葉への関心が高まり，難しい語句の理解や漢字の定着に役立ってくる。

## 二文を一文にする問題

(例) 運動会の前に体調をくずした人がいた。⇒ 健康に気をつける。

[正答] (運動会の前に体調をくずさないように、健康に気をつけること。)

(問) 開会式の集合時こくにおくれた人がいた。⇒ 早めに行動する。

(正答率 本市63.6% 全国60.3%)

### ◇分析

本設問は、相手に伝えたいことを明確に表現するために、事象と意見との関係を区別しながら、文の論理を考えて書くものである。指示された文の構成に合わせて、二分を一文にして書く必要がある。

過去の全国調査では、H19年度「文を構成する」(正答率57.9%)、H20年度「文章を推敲する」(正答率34.0%)、H21年度「一文を二分に分ける」(正答率15.0%)において同様な問題を取り上げている。過去三か年は、複数の内容を含む一文を分析して理解することに課題があった。

これらのことを踏まえると、複数の内容を含む一文の中の語句の役割や語句相互の関係を理解したり、文と文との関係をおさえながら言語を操作して一文に書いたりすることに課題があると考えられる。

### ◎学習指導に当たって

#### (1) 文の論理を考え、構成を整えて書く

伝えたい内容を的確に伝えるために、文の論理を考え、構成を整えて書くことが重要である。例えば、原因となる一文と結果を表す一文とを合わせて一文にまとめたり、その反対に複文や重文を接続語を使って二文に書き分けたりするように指導することが大切である。このようなことは、国語科の学習のみならず、各教科等の学習においても意図的に指導することが大切である。

#### (2) 条件に基づいて適切に書く

指示された字数や文の数、文末表現などの条件に基づいて、必要のある事柄を取捨選択して適切に書くことが重要である。そのためには、目的や意図を明確にした上で、多様な条件を提示し、それらに合わせて適切に書くことができるように指導することが大切である。

## イ 国語B (主として活用)

### 《全体的な傾向》

本市は全国平均正答率と比較すると、0.2ポイント下回っている(昨年度は+1.9ポイント)。領域別に見ると、「話す・聞くこと」「書くこと」は全国を上回っているが、「読むこと」「言語事項」ではかなり下回っている。しかし、「言語事項」の問題は一問だけであり、この問題だけで言語事項が劣っているとは言い切れないかもしれない。

### ○正答率が低かった問題について

#### 1 学校新聞に対する二つの意見の共通点を書く 「書くこと」

学校新聞に対して読み手が評価した意見の共通点を整理し、自分の表現の効果を確かめる問題である。

A : 学校新聞には、写真を入れた方がよいと思います。四月号は文章ば!



分の考えを形成していくことが大切である。そのためには、話し手の立場や意図をとらえて聞き、比較、対照したり、関連のあることをまとめたり分類したりして、自分の考えを明確にしていく指導が必要である。

(2) 資料や数値を根拠にして自分の考えを述べる

話し合いでは、自分の考えの根拠を端的に示すことで聞き手の理解を促すことが大切である。そのためには、意図に応じて、資料やそこに含まれる具体的な数値などの事実を根拠とした自分の考えを述べる必要がある。

(3) 調べたことやまとめたことについて討論などをする

調べたことやまとめたことを話題として取り上げ、互いの考えを出し合って討論する言語活動を充実することが大切である。調べたことやまとめたことについて討論するためには、本や文章を調べたり、インタビューやアンケートを行ったりするなどして自分なりに幅広く考え、資料を用意しておくことが必要となる。

3 物語を読んで、あなたが思ったことや考えたことを、次の条件に合わせて書きなさい

- い*【条件】○思ったことや考えたことをはっきりと書くこと。  
○思ったことや考えたことの原因が分かるように書くこと。  
○60字以上、80字以内にまとめて書くこと。

(正答率 本市74.0% 全国82.3%)

◇分析

本設問では、叙述について自分が思ったことや考えたりしたことを、理由を明確にしてまとめる問題である。児童は思ったことを発表したり、書いたりすることはできるが、理由まで説明することはあまり見られない。普段の授業においても、考えの根拠を明確にする授業を心がける必要があると思われる。

◎学習指導に当たって

(1) 感じたり考えたりしたことをまとめながら読む

物語の内容を理解するにとどまらず、優れた叙述をとらえ、自分が感じたり、考えたりしたことをまとめながら読むことが必要である。そのためには、物語の構成や展開、場面の設定、語り手や登場人物、情景の描写など、読みの視点を持ち、今までの読書経験や体験などと関連づけ、感じたことや考えたことなどをまとめながら読むことができるように指導することが大切である。

(2) 本や文章を読んで考えたことを発表し合う

目的に応じて、様々な本や文章を読み、考えたことを発表し合うことが重要である。そのためには、物語を読んで思ったことや考えたことを発表し合うといった読書発表会などの言語活動を設定して指導することが大切である。その際、あらすじについては、物語全体の構成や展開の面白さをとらえるといった目的や必要性を明確にして指導することが大切である。

## ②中学校国語

### ア 国語A (知識)

#### 4二 一文を二文に分けて書く問題

「今、私たちは全国大会出場に向けて練習していて、三年生にとって最大の目標です。」には二つの内容が含まれています。意味は変えずに二つの文に分けて書きなさい。なお、二文めには「目標です。」に対応する主語を補いなさい。

( 正答率 本市47.2% 全国41.4% )

#### ◇分析

書いた文章を読み返し、読みやすく分かりやすい文章にすることができるかどうかをみる問題である。正答率は47.2%であった。

分かりやすい文章にするために、二文に分けたり、主語を補ったりすることに課題がある。

#### ◎学習指導に当たって

推敲の仕方(主述の関係、修飾語の位置、句読点の打ち方等)を指導し、誤った表現を含んだ文を用い、文を修正する例を具体的に示す指導が効果的と思われる。

また、声に出して読んだり、互いに読み合うことでより定着を図っていくことも必要である。

#### 10三 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことができるかどうかをみる問題

イ 会議で決を( 1 執る 2 撮る 3 捕る 4 採る )。

( 正答率 本市46.8% 全国43.2% )

オ 兄は困っている人を見るとほうっておけない( 1 品格 2 資質 3 性分 4 器量 )だ。

( 正答率 本市56.0% 全国48.8% )

#### ◇分析

正答率が46.8%、56.0%であり、言語事項等の問題の中では、低い数値である。同音異義語・同訓異字の使い分け・書き分けや語彙を豊かにするための指導が必要と考えられる。

#### ◎学習指導に当たって

授業に限らず、日常生活においても国語辞典や漢和辞典を積極的に利用させることが大切である。あるいは、利用機会を意図的に設けることが必要である。

国語辞典には、語の意味だけでなく、表記の仕方や品詞、用例、対義語や類義語など、様々な情報が載せられている。辞書に掲載されている複数の意味の中から、文脈にふさわしい語釈や用例を参考にして、適切な意味をとらえさせることが大切である。特に、たくさんの意味があることを知るだけでなく、文脈に即して、実際に使えるようになることが必要である。例えば語句を使って短文を作るなどである。調べたことを話す・聞く、書く、読むという言語活動に生かしていくようにすることが重要である。

また、「いつかは使ってみたい言葉」を書きとめておく習慣を付けるなどの指導も有効である。例えば、読書記録の中に、新しく覚えた言葉を記録するページを設け、どのような文脈の中で使われていたかを記録しておく。こうした読書活動によって、学習者の生活そのものが広がり自然に語彙を豊かにすることができる。

## イ 国語B (活用)

### 3 二 表現の仕方に注意して読み、内容について理解する問題

「羊の御厄介になったり、蚕のお世話になったり、綿畑のお情けさえ受ける」とありますが、この部分は、人間が何をどうすることを表したのですか。十字以内で書きなさい。

( 正答率 本市 **43.1%** 全国 **35.5%** )

( 無解答率 本市 **12.1%** 全国 **18.7%** )

#### ◇分析

問題文「吾輩は猫である」は、生徒にとって読解しやすい文章である。しかし文語的表現や比喩的な表現で書かれた内容について理解することができなかったと思われる。

また、設問の意味を理解することができなかったため、正答率が低く、さらに無解答率も高かったと思われる。

#### ◎学習指導に当たって

文学作品のなかから比喩的表現を抜き出す学習を繰り返し行うことにより、比喩的表現の効果について理解する。

例文を提示しながら、比喩的表現を使った短文作りを行い定着を図る。

読書指導を通して、多くの作品に触れる機会を意図的に設ける。

## (2) 算数・数学

### ①小学校算数

#### ア 算数A (知識)

#### ○設問の概要

A 2 (1) 8 mの重さが4 k gの棒の1 mの重さを求める式と答えを書く。

#### ○出題の趣旨

商が1より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面で、除法が用いられることを理解している。

#### ○学習指導要領の内容・領域

A 数と計算 第5学年(3)ア ウ

#### 【分析結果】

正答率は全国平均(53.8%)をやや下回っていて、問題の趣旨を十分達成できている状況ではない。誤答については「2kg」と答えた児童が3割を超えており、(整数)÷(整数)の除法では、被除数の方が除数より大きくなると考えているようだ。

#### 【手だて】

商が1より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面では、何が被除数で何が除数かをとらえることが困難な場合がある。そのような場面からも、数量の関係をとらえ、除法を用いることを判断できるようにすることが大切である。

手だてとしては、示された数量を図に表す活動を取り入れ、数量の関係を考え、用いる演算を判断できるようにすることが考えられる。例えば、線分図をかく活動を取り入れ、その際、8 mの重さが4 k gであることを確認し、1 m分の重さを求めるために4 k gを8等分すればよいことを理解できるようにし、「4÷8」と立式できるようにす

ることが大切である。さらにこのような場面をもとに、商が1より小さくなる等分除（整数）÷（整数）の場面があることを確認することも大切である。

○設問の概要

A 9 (1) ジャガイモ畑の面積  $40 \text{ m}^2$  が、学校の畑の面積  $50 \text{ m}^2$  のどれだけの割合にあたるかを書く。

○出題の趣旨

割合の意味を理解している。

○学習指導要領の内容・領域

D 数量関係と測定 第5学年 (1) ア

【分析結果】

正答率は全国平均（57.4%）を下回る結果であり、問題の趣旨を十分達成できている状況ではない。割合は（比較量）÷（基準量）、つまり  $40 \div 50$  を計算すれば良いところを、誤答をみると、おおかた  $50 \div 40$  を計算している。また、 $50 - 40 = 10$  としたあとに、 $10 \div 50$  を計算しているものもいる。

【手だて】

割合を求める場合、（比較量）÷（基準量）で割合が求められることを理解していること、問題の場面から何が基準量で何が比較量かをとらえられることの両方が必要である。

指導に当たっては、テープ図や線分図に表す活動を取り入れ、数量の関係をとらえられるようにすることが考えられる。その際、ジャガイモ畑の面積  $40 \text{ m}^2$  と学校の畑の面積  $50 \text{ m}^2$  を比べようとしていることを確認したり、学校の畑の面積  $50 \text{ m}^2$  をもとに考えようとしていることを確認したりすることが必要である。

さらに、割合を求めた後に、2つの数量の関係を「学校の畑の面積を基にすると、ジャガイモ畑の面積の割合は、0.8倍です。」のように表現する活動を取り入れ、何を基にしているのかを意識できるようにしたり、用いる用語や、表現の仕方に児童が慣れるようにしたりすることも大切である。

【参考】

平成20年度調査,平成21年度調査との関連

	問題番号	問題の概要	正答率
設問 (1)	H20 A 9 (2)	620冊の本の40%の冊数を求める式と答えを書く	55.1%
	H21 A 7	200人のうち、80人が女子のとき、女子の人数の割合は全体の何%か選ぶ	57.1%

イ 算数B (活用)

○設問の概要

B 5 (2) 割引券を使うと値引きされる金額が最も大きくなる商品を選びそのわけを書く。

○出題の趣旨

割合が一定の場面で、比較量が最も大きくなるときの基準量を判断し、その理由を記述する。

○学習指導要領の内容・領域

## 【分析結果】

正答率は全国平均(17.1%)をやや下回っていて、問題の趣旨を十分達成できている状況ではない。記号で正答を選んだ割合は77.1%であったが、基準量と割合のみを述べるなど、基準量・比較量・割合の3つの関係をもとに正答の理由を記述することが不十分だった割合が約20%、記号の回答はできたが、理由が無回答だったと思われる割合が約40%見られた。基準量・比較量・割合の関係を理解し、判断した理由を数学的に表現することに課題があると思われる。

## 【手だて】

これらの指導に当たっては、基準量・比較量・割合の関係を確認・理解する活動や、テープ図や線分図、数直線の長さを比べる活動、言葉の式を用いて表す活動を取り入れることが考えられる。

また、判断した理由を数学的に表現するためには、筋道を立てて言葉で伝え合う活動を取り入れるとともに、数学的な表現方法を用い、整理して書く活動を取り入れていくことが大切であると思われる。

0.5倍、0.25倍などを、「半分」「半分の半分」などの言葉と結びつけ割合を考えることができるようにしたり、割合が一定の時に、基準量の大小から比較量の大小を判断できるようにしたりする事も大切であると思われる。

## 【参考】

平成20年度調査,平成21年度調査との関連

	問題番号	問題の概要	正答率
設問 (2)	H20 B 2 (3)	米の生産額について、「割合が減っているから、生産額は減っている」という考え方が正しいかどうかを判断し、そのわけを書く	17.6%
	H21 B 5 (3)	4月と6月の全体の重さを基にしたペットボトルの重さの割合の大小関係をとらえ、判断のわけを書く	17.9%

## ○設問の概要

B6(2) バスのドアが動く様子を表した図を見て、円周の一部と直線の長さの大小についての正しい記述を選び、判断のわけを選ぶ。

## ○出題の趣旨

示された図や考え方を基に、長さの大小を判断し、その判断の理由を数学的に表現できるかどうかをみる。

## ○学習指導要領の内容・領域

C 図形 第5学年(1)エ

## 【分析結果】

正答率は全国平均(14.6%)をやや下回っていて、問題の趣旨を十分達成できている状況ではない。正答の条件は、①長さを求める式、②その答えと大小の比較、③「Bの長さは」など式で求める対象を示す言葉、のすべてを書いていることである。しかし、①から③の条件をひとつも書いていなかったり、無解答だったりした児童が22.4%もいた。これは、自分の考えを他者に的確に伝えるための説明の方法を十分に身につけていないと考えられる。

【手だて】

自分の考えを他者に的確に伝えるためには、式だけではなく、なぜその式になるのかという根拠や、何を求めるための式なのかという説明の対象を明らかにして説明することが大切である。その際、目的に応じて図や表などに関連付けて説明することも大切である。また、根拠と結論を明らかにして説明することは、論証の素地としても大切である。

指導に当たっては、式だけが書かれた説明を基にして、より分かりやすい説明へ改善する活動を取り入れることが考えられる。例えば、設問(2)で、「 $50 \times 2 \times 3.14 \div 4$ 」という式だけを書いた説明を基に、「 $50 \times 2 \times 3.14$ は何を表していますか」、「なぜ4で割るのですか」などと教師が問いかけて、式の意味や立式の根拠を確認し、分かりやすい説明を完成させることが考えられる。さらに、「AだからBとなる」のように、根拠と結論を明らかにして説明できているかどうかを確認することも考えられる。

②中学校 数学

ア 数学A (知識)

○設問の概要

2 (2) 答えが  $210a$  で表される事象を選ぶ。

○出題の趣旨

与えられた文字式を具体的な事象と関連付け、その意味をよみとることができる。

○学習指導要領の内容・領域

A 数と式 第1学年 (2)

【分析結果】

正答率は、全国の正答率 (74.5%) をやや上回り、まずまず良好な結果であった。

正答以外の選択肢はすべて答えが  $\frac{210}{a}$  となるものであったが、どの選択肢もほぼ同じ割合で誤答があった。

【平成19年度調査 (小学6年) との関連】

平成19年度の小学校では、「 $210 \times 0.6$ の式で答えが求められる問題を選ぶ」問題が出題された。今回の問題は、 $0.6$ が $a$ になっているだけで、具体的な事象もまったく同じであった。このときの市の正答率も、全国の正答率54.1%をやや上回っていた。小学6年時と比べて、正答率が大きく上がったのは、 $0.6$ という1より小さい数より、文字 $a$ の方が考えやすかったためと思われる。

【手だて】

文字式に表現する以前の問題として、具体的な事象における数量の関係を見いだすことを定着させる必要がある。文字の部分を変えて、式を立てる練習をさせる必要がある。

○設問の概要

5 (4) 円柱の体積を求める式と答えを書く。

○出題の趣旨

円柱の体積の求め方を理解し、体積を求めることができる。

○学習指導要領の内容・領域

【分析結果】

正答率は、全国の正答率（39.9%）を上回ったものの正答率が半分以下で良好の結果とは言えない。底面の円の面積を円周率 $\pi$ を用い答え、体積（柱体）を求める公式を理解する事に課題がある。

【平成19年度調査（小学6年）との関連】

平成19年度の小学校の問題の概要は“半径10cmの円の面積を求める式と答えを書く”であった。この時の全国の正答率は73.2%で、それをやや上回っておおよそ良好な結果であった。円柱の体積を求める問題では、底面の円の面積を求める事が同じであるが、円周率 $\pi$ を使うことが異なる。

【手立て】

底面をそれと垂直な方向に移動させてできた立体をとらえ、その体積が（底面積）×（移動の距離）で求められることを理解させる。その（移動の距離）が高さと言うことで、（底面積）×（高さ）という公式を理解していく。底面積は、円の面積であり、円周を求めるものではない。また、円周率 $\pi$ を用いることが小学校とは異なる。

○設問の概要

11（3）16cmの長さのひもで作る長方形の縦の長さとの横の長さの関係を式で表す。

○出題の趣旨

具体的な事象における1次関数の関係を式で表すことができる。

○学習指導要領の内容・領域

C 数量関係 第2学年（1）イ

【分析結果】

正答率は、全国の正答率（22.9%）を上回ったものの正答率が半分以下で課題がある。具体的な事象の中から2つの数量を取りだし、それらの変化や対応を通して、2つの数量の関係を式に表すことに難がある。

【平成19年度調査（小学6年）との関連】

小学校で出題されたときには、縦の長さとの横の長さの変化の様子を表に表すことができ、おおよそ縦と横の変化の様子を言葉で表すことができた。（正答率75.3%）しかし、中学生となり、1次関数を学習し、2つの数量の関係を式に表すことができていない。表に表すことはできる。しかし、表で関係を作ってから式に表す習慣がないために、表も作らず、式でも表せなくなっている生徒が多いと考えられる。

【手だて】

数量の関係がうまく捉えられないときに、図や表に表したりすることが必要である。この問題では、図が与えられており、その図を見ても関係が捉えられない場合には、表で表すことが必要である。その上で、変化や対応の様子を調べて式に表す活動が必要になる。縦の長さを1cmずつ大きくしたときの横の長さを表に表しながら、 $x$ の値があたえられたときに $y$ の値をどのように求めればよいのかを考え、式に表す経験を授業の中でたくさんさせる必要がある。

## イ 数学B (活用)

### ○設問の概要

2 (2) 連続する3つの奇数の和が3の倍数になることを説明する。

### ○出題の趣旨

筋道を立てて考え、事柄が一般的に成り立つ理由を説明することができる。

### ○学習指導要領の内容・領域

A 数と式 第2学年

### 【分析結果】

正答率は、全国の正答率(24.3%)を上回ったものの、良好の結果とは言えない。数学であらゆることがらや性質を説明するという事は、その条件にあてはまるあらゆる場合にそのことがらが成り立つことを説明する必要がある。どんな数も代入しうる文字を用いる必要がある。

### 【手立て】

論証問題は、図形だけでなく、数式の分野での論証もある。文字を使って、一般的な証明ができる。式の変形で $6n + 3 = 3(2n + 1)$ となり、 $3 \times$ (整数)の形が3の倍数となることを理解すること。

### ○設問の概要

3 (2) Tシャツ35枚のプリント料金が最も安い店をグラフから判断する方法を説明する。

### ○出題の趣旨

「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。」

### ○学習指導要領の内容・領域

C 数量関係 第2学年(1)イ

### 【分析結果】

正答率は、全国の正答率(29.1%)を上回ったものの正答率が半分以下で課題がある。事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明できるかが問われた。グラフから求められている答えを判断することはできるが、判断の方法をうまく説明できていない誤答が多い。

### 【手だて】

実生活では、与えられた表やグラフから必要な情報を適切に選択したり、それを基に判断したりするなど、日常的な事象の考察のために表やグラフを活用することが必要となる。その際、問題解決の方法や手順を考え、それを数学的な表現を用いて的確に説明することが大切である。問題解決の方法や手順を説明できない生徒が多いため、次のようなことを授業で意識する必要がある。問題を解決できればよいで終わらずに、問題解決の方法や手順をノートに書かせたり、その上で発表させたりする場面を多く設ける。つまり、表・式・グラフなどをどのように用いて問題解決すればよいのかについて説明する場面を多く設定する必要がある。

○設問の概要

5 (2) 平行四辺形になることを証明するための根拠となる事柄を書く。

○出題の趣旨

事象を数学的に解釈し，成り立つ事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明することができる。

○学習指導要領の内容・領域

B 図形 第2学年(2)イ

【分析結果】

正答率は，全国の正答率（9.4％）を上回ったものの，正答率が非常に低い。また無解答も3割以上あり，課題がある。

【平成19年度（小学6年）との関連】

小学校で出題されたのは，「方眼紙上で，3点が与えられた平行四辺形の残りの点の位置を選ぶ」問題であった。正答率は，全国の正答率（88.5％）とほぼ同じで高かった。

【手だて】

平行四辺形になるための条件（根拠）は，5種類ある。まずは，これを正確に覚え，理解させる必要がある。また，問題文のなかに「上の段が下の段に対していつも平行に保たれるようになっていきます」という記述から，「1組の向かい合う辺が平行で，その長さが等しい」と誤答した生徒も多かった。仮定と結論を混同したものであると考えられる。授業において，仮定と結論を，よく区別させた上で，証明をしていく指導が必要である。